

学校だより

温故知新

恵那市立岩邑中学校

学校の教育目標

確かな学力 豊かな心 逞しい体

令和4年7月1日

『平等』と『公正』

校長 丸山 成之

1学期も終わりが近づき、まとめの時期となりました。中間テストが終わり、中体連が終わるともうすぐ夏休みですね。体育祭の取組準備もはじまります。この時期に、「平等」と「公正」について少し触れたいと思います。

右の塀越しに野球観戦をしている親子の絵は「Equality (平等性)」と「Equity (公正性)」を表現したものとして、さまざまところで引用されています。「平等」と「公正」はどう違うのでしょうか。もし社会の中で「不平等だ!」「ずるい!」などという言葉に出会ったときには、この絵を思い出してみると誤解せずに真実を見抜くことができるのではないかと思います。「誰にとっても平等である」と「誰にとっても公正である」ことの違いを端的に表しています。

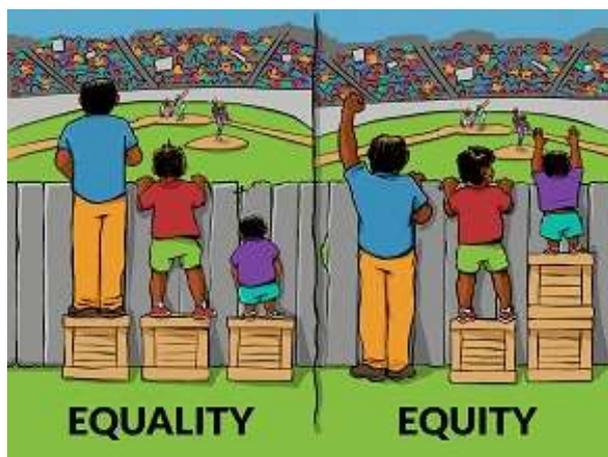
学校とはもともと多様な個性のある人間が、さまざまな考え方・意見をもち、集まっているところです。

たとえば、昨年度の体育祭の振り返りのなかで、「運動の得意、不得意から気持ちやすれ違い、うまくいかない時もあったけれど、目標に向けて団結が深まった」という意見がありました。おそらく頭の中や心の中でこの絵と同じような理解が広がり、深まった結果なのではないかと考えます。

こうした経験ができることこそ、仲間に取り組む意味や意義のひとつです。そして、一番よいのは、この絵で言うならば、野球を観戦するのに邪魔な塀を無くす方向に皆が力を合わせてもっていくことです。塀が木製ではなく、マウンドがよく見えるフェンスや透明な強化プラスチックになれば、誰にとってもメリットのあるものになるでしょう。人のことを嫉妬したり、自分だけよければよいと考えたりすることなく生きていくのはなかなか難しいことですが、本校の教育目標の一つ「豊かな心＝笑顔、思いやり」にもつながる大切なことと言えます。

では、それを実現するためには何をどうするのがよいのでしょうか。そのためには、ものの見方や考え方を変える必要があります。既存のものにとらわれることなく、「×(ダメ)出し文化＝できていないところに目を向けること」から、「○(マル)出し文化＝できていることに目を向けること」へ、今以上に変えていかなければならないと考えています。

未来に向かってつながる多くのことを◎にするため、過去や現在を簡単に否定するのではなく、どうしたらできるか、いま自分たちは何をどうすればよいのかをしっかりと考えて行動することが重要です。そのためにも、日々の取組の中でさまざまな課題についてしっかりと考えることです。なぜなら、未来とは過去や現在の結果に過ぎないのですから。今後の取組が一人一人にとって素晴らしい経験になることを願っています。



【引用出典】

「Illustrating Equality VS Equity」

<https://interactioninstitute.org/illustrating-equality-vs-equity/>